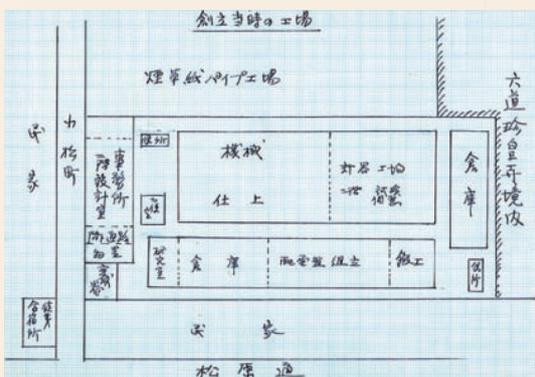
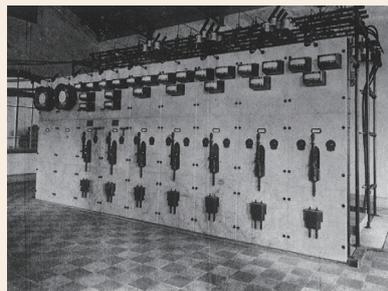


技術の100年史コラム (1) 主生産拠点の変遷

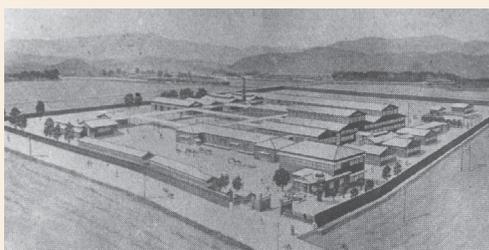


日新工業社地図

1910年京都市下京区大和大路四条南入（現、東山区）に電気計器の製造会社「日新工業社」を興した。1912年には、配電盤の製造も開始した。



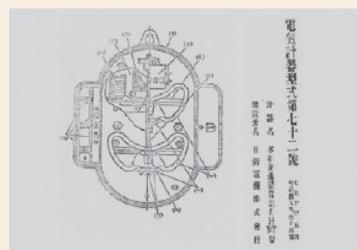
京都電燈
河原町変電所
配電盤
(大理石盤)



車坂工場全景イラスト



積算電力計



積算電力計（型式登録図面）

1917年、京都市中京区西ノ京車坂町に新工場を設立、積算電力計の開発を始めた。その後紆余曲折を経て、20年に完成に至り、型式登録を申請した。

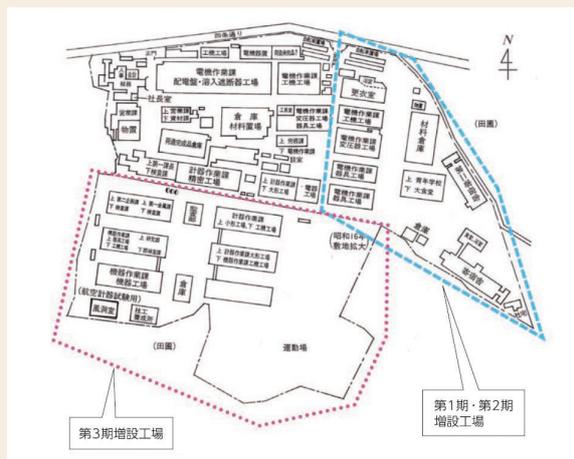
1937年に梅津地区に新工場を建設、移転。その後、第1期、第2期、第3期と増強。

最大時には学徒動員を含め4500人の従業員を抱えるまでになった。



航空機用計器

当初、主力事業は計器類と配電盤等の機械類がであったが、戦後末期には、航空機用計器の増産が計画され、主力になった様子である。



1943年3月時の本社工場配置図

技術の100年史コラム (2) 電力用コンデンサ技術の変遷



OF式コンデンサ



電力用コンデンサ設備

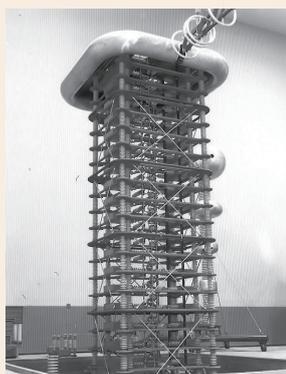
住友電線製造所（現、住友電気工業）がOF式コンデンサを開発し、工業化に成功。1945年に当社へその事業が移管された。

その後、コンデンサの技術は大容量小型化・多様化の革新を遂げた。



大地置式高調波フィルタ設備

技術の100年史コラム (3) ビーム・真空応用技術の変遷



IG (インパルスジェネレータ)



NS型静電加速装置

戦後、電力用コンデンサの移管を契機にコンデンサを応用した電力機器の耐電圧試験として使用されるIG (インパルスジェネレータ) も確固たる地位を築いた。ここで培った直流高電圧技術は次の時代の電子線加速器技術の導火線となり、1959年NS型静電加速装置を完成させる。

1970年の米HVEC社との提携をきっかけに事業化に乗り出す。続いて半導体用のイオン注入装置の開発、さらには1984年には米マルチアーク社との提携により表面コーティング装置事業に進出し、ビーム・真空応用事業分野を切り開いていった。



電子線照射装置



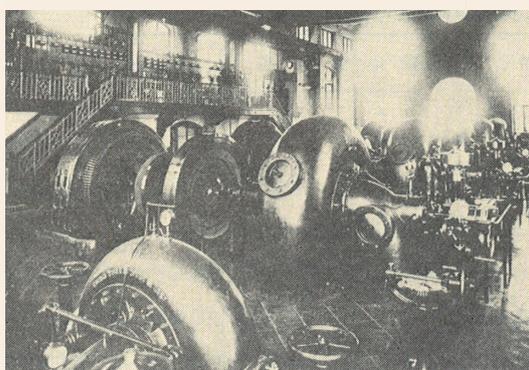
イオン注入装置



薄膜コーティング装置

技術の100年史コラム (4)

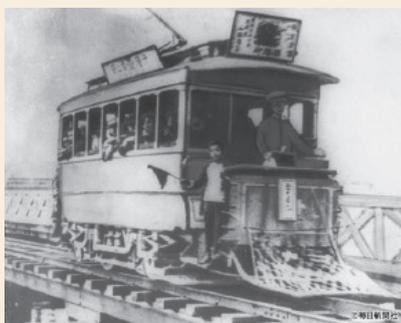
日新電機 誕生の地



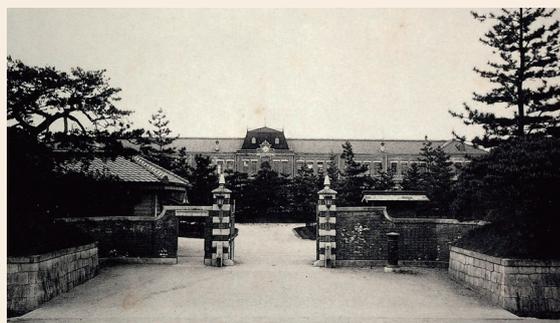
蹴上発電所

京都の地で、1892年に我が国初の事業用水力発電所が運用開始され、1895年には、我が国初の市電が開業した。

当社はその10数年後、ここ京都で生まれ、100年を超える歴史が始まった。



京都市電



京都帝国大学正門